

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成22年11月12日

【四半期会計期間】 第62期第2四半期(自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)

【会社名】 松尾電機株式会社

【英訳名】 MATSUO ELECTRIC CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 執行役員 清水 巧

【本店の所在の場所】 大阪府豊中市千成町3丁目5番3号

【電話番号】 (06)6332-0871 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 総務・経理部門長 竹野井 薫

【最寄りの連絡場所】 大阪府豊中市千成町3丁目5番3号

【電話番号】 (06)6332-0871 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 総務・経理部門長 竹野井 薫

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第61期 第2四半期連結 累計期間	第62期 第2四半期連結 累計期間	第61期 第2四半期連結 会計期間	第62期 第2四半期連結 会計期間	第61期
会計期間	自 平成21年 4月1日 至 平成21年 9月30日	自 平成22年 4月1日 至 平成22年 9月30日	自 平成21年 7月1日 至 平成21年 9月30日	自 平成22年 7月1日 至 平成22年 9月30日	自 平成21年 4月1日 至 平成22年 3月31日
売上高 (千円)	3,409,136	3,656,727	1,816,907	1,878,471	6,916,303
経常利益又は経常損失 (△) (千円)	△187,316	164,862	△83,424	89,532	△95,779
四半期純利益又は四半 期(当期)純損失(△) (千円)	△213,137	100,091	△105,931	84,627	△226,381
純資産額 (千円)	—	—	7,482,778	7,507,398	7,567,468
総資産額 (千円)	—	—	9,994,733	10,080,841	10,074,532
1株当たり純資産額 (円)	—	—	290.28	291.28	293.59
1株当たり四半期純利 益金額又は1株当たり 四半期(当期)純損失 金額(△) (円)	△8.26	3.88	△4.10	3.28	△8.78
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	—	—	74.8	74.4	75.1
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	△191,041	225,947	—	—	△18,187
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△15,864	△30,850	—	—	△47,616
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	61,522	△39,003	—	—	△39,398
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	—	—	737,480	928,217	780,127
従業員数 (名)	—	—	490	484	485

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第61期第2四半期連結累計(会計)期間及び第61期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失であり、又潜在株式が存在しないため記載していません。

3 第62期第2四半期連結累計(会計)期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

4 従業員数は、就業人員を表示しています。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結会計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

3 【関係会社の状況】

当第2四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成22年9月30日現在

従業員数(名)	484
---------	-----

(注) 従業員数は就業人員です。

(2) 提出会社の状況

平成22年9月30日現在

従業員数(名)	426
---------	-----

(注) 従業員数は就業人員です。

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第2四半期連結会計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりです。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同四半期比(%)
タンタルコンデンサ事業	1,492,793	—
回路保護部品事業	345,985	—
その他	116,459	—
合計	1,955,238	—

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当第2四半期連結会計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりです。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同四半期比(%)	受注残高(千円)	前年同四半期比(%)
タンタルコンデンサ事業	1,569,134	—	567,615	—
回路保護部品事業	275,739	—	113,040	—
その他	106,231	—	43,743	—
合計	1,951,105	—	724,399	—

(3) 販売実績

当第2四半期連結会計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりです。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同四半期比(%)
タンタルコンデンサ事業	1,481,721	—
回路保護部品事業	286,343	—
その他	110,406	—
合計	1,878,471	—

- (注) 1 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前第2四半期連結会計期間		当第2四半期連結会計期間	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
(株)デンソー	421,581	23.2	411,860	21.9

- 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業等のリスク】

当第2四半期連結会計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われていません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、本四半期報告書提出日現在において当社グループが判断したものです。

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結会計期間の当社グループの売上高については、第1四半期連結会計期間からの車載向け市場、テレビなどのホームエレクトロニクス市場向けの需要の回復傾向が継続し、前年同四半期の売上高を上回りました。その結果、総売上高は、前年同四半期比3.3%増加し18億7千8百万円となりました。

収益面については、売上高に対応したコスト体系の維持及び収率改善等のコストダウンの推進を実行した結果、営業利益1億1百万円、経常利益8千9百万円、四半期純利益は8千4百万円となりました。

セグメント別の業績は次のとおりです。

・タンタルコンデンサ事業

売上高は、車載向けの販売は堅調に推移しましたが、携帯電話向けの販売が減少し、14億8千1百万円となり、セグメント利益は、1億2千6百万円となりました。

・回路保護部品事業

売上高は、携帯電話、デジタルビデオカメラなどの小型携帯電子機器向け及びテレビなどのホームエレクトロニクス市場向けの販売が増加し、2億8千6百万円となり、セグメント利益は、8千万円となりました。

・その他

主として、フィルムコンデンサの売上高が車載向けに増加した結果、1億1千万円となり、セグメント利益は、1千7百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ6百万円(0.0%)増加し、100億8千万円となりました。流動資産は、同3億5千9百万円(6.1%)増加し、61億9千3百万円となりました。これは主として、製品が1億6百万円減少したものの、現金及び預金が2億5千5百万円増加したこと等によるものです。固定資産は、同3億5千3百万円(△8.3%)減少し、38億8千7百万円となりました。これは主として、投資有価証券の時価の下落等により、投資その他の資産が2億9千3百万円減少したこと等によるものです。

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ6千6百万円(2.6%)増加し、25億7千3百万円となりました。流動負債は、同5千2百万円(2.8%)増加し、19億1千5百万円となりました。これは主として、支払手形及び買掛金が4千5百万円増加したこと等によるものです。固定負債は、同1千3百万円(2.1%)増加し、6億5千7百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ6千万円(△0.7%)減少し、75億7百万円となりました。これは主として、利益剰余金が6千1百万円増加したものの、その他有価証券評価差額金が1億2千1百万円減少したこと等によるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、第1四半期連結会計期間末に比べ6千8百万円増加し9億2千8百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

たな卸資産が増加に転じ、仕入債務の増加額が減少しましたが、税金等調整前四半期純利益を計上したこと、売上債権の増加額が大きく減少したこと等により前年同期比2億2千3百万円増加し、1億9百万円となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

有形固定資産の取得が増加したこと等により前年同期比3千5百万円減少し、マイナス2千9百万円となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

短期借入金の増加がなくなったこと等により前年同期比1億4千9百万円減少し、マイナス7百万円となりました。

フリーキャッシュ・フローは、前年同四半期比1億8千7百万円増加し、8千万円となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

タンタルコンデンサ事業においては、汎用品質チップタンタルコンデンサラインアップの拡充及び下面電極構造を採用した導電性高分子タンタルコンデンサのラインアップの拡充を行い、回路保護部品事業においては、薄膜タイプのヒューズの定格電流の拡張及び定格電圧の拡張の開発を行いました。当第2四半期連結会計期間の研究開発費の総額は5千9百万円です。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

電子部品業界の今後の見通しにつきましては、景気及び為替の動向が不透明なこと、原材料価格の上昇が見込まれること等により、厳しい状況が続くものと予想されます。

当社グループとしましては、引き続きカーエレクトロニクス・小型携帯電子機器・情報通信インフラの中核市場向け及びホームエレクトロニクス・医療機器・ユニット機器の販売拡大市場向けの販売を強化するとともに、原材料価格の上昇を補うための適正な販売価格の実現及び海外売上高の拡大を図ります。また、汎用品質製品及び下面電極構造タイプの導電性高分子タンタルコンデンサの需要増加が予想され、その対応を推進します。

費用面につきましては、引き続き売上高に対応したコスト体系を維持するとともに、顧客のニーズに対応するために投資効率を十分勘案した設備投資を行います。

以上の諸施策を推進することにより、持続可能な事業成長の実現のために利益体質の基盤を確立する所存です。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループ経営陣は、直面する厳しい事業環境を考慮して、平成20年4月を起点として立案した3カ年の中期経営計画の見直しを行い、グループ一丸となって遂行中です。計画の達成に注力し、通期の営業損益の黒字化に努める所存です。

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第2四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

第1四半期連結会計期間末に計画中であった重要な設備の新設、除却等はありません。

また、当第2四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	78,383,013
計	78,383,013

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成22年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成22年11月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	26,220,000	26,220,000	大阪証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は1,000株です。
計	26,220,000	26,220,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成22年9月30日	—	26,220,000	—	2,219,588	—	3,341,270

(6) 【大株主の状況】

平成22年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
日本生命保険相互会社	大阪市中央区今橋3丁目5番12号	1,893	7.22
松尾電機投資会	大阪府豊中市千成町3丁目5番3号	1,495	5.70
松尾 浩和	神奈川県横浜市戸塚区	1,376	5.25
片山 千恵子	神奈川県横浜市保土ヶ谷区	1,305	4.97
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	1,160	4.42
松尾電機従業員持株会	大阪府豊中市千成町3丁目5番3号	879	3.35
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町1丁目13番1号	706	2.69
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2丁目1番1号	400	1.52
株式会社南日本銀行	鹿児島県鹿児島市山下町1番1号	391	1.49
東京海上日動あんしん コンサルティング株式会社	東京都中央区築地5丁目6番10号	325	1.23
計	—	9,932	37.88

(注) 1 上記のほか当社所有の自己株式446千株(1.70%)があります。

2 松尾電機投資会は当社の取引先企業で構成されている持株会です。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成22年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 446,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 25,499,000	25,499	—
単元未満株式	普通株式 275,000	—	—
発行済株式総数	26,220,000	—	—
総株主の議決権	—	25,499	—

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管機構名義の株式が1,000株(議決権1個)含まれています。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式831株が含まれています。

② 【自己株式等】

平成22年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 松尾電機株式会社	大阪府豊中市千成町 3丁目5番3号	446,000	—	446,000	1.70
計	—	446,000	—	446,000	1.70

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成22年 4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	120	116	111	103	102	90
最低(円)	95	92	96	94	76	79

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所市場第二部におけるものです。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動はありません。

第5 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第2四半期連結会計期間(平成21年7月1日から平成21年9月30日まで)及び前第2四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年9月30日まで)は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第2四半期連結会計期間(平成22年7月1日から平成22年9月30日まで)及び当第2四半期連結累計期間(平成22年4月1日から平成22年9月30日まで)は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第2四半期連結会計期間(平成21年7月1日から平成21年9月30日まで)及び前第2四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表並びに当第2四半期連結会計期間(平成22年7月1日から平成22年9月30日まで)及び当第2四半期連結累計期間(平成22年4月1日から平成22年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、太陽ASG有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,024,610	1,768,999
受取手形及び売掛金	2,490,804	2,423,643
有価証券	93,804	76,127
製品	667,990	774,433
仕掛品	503,701	452,499
原材料及び貯蔵品	384,379	318,190
その他	34,462	26,479
貸倒引当金	△6,479	△6,414
流動資産合計	6,193,273	5,833,959
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具	15,465,148	15,430,878
減価償却累計額及び減損損失累計額	△14,099,496	△14,026,109
機械装置及び運搬具（純額）	1,365,651	1,404,768
その他	6,689,023	6,695,475
減価償却累計額及び減損損失累計額	△5,184,744	△5,171,366
その他（純額）	1,504,279	1,524,109
有形固定資産合計	2,869,930	2,928,878
無形固定資産	30,204	30,323
投資その他の資産		
投資有価証券	967,542	1,160,948
その他	19,890	120,424
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	987,432	1,281,371
固定資産合計	3,887,567	4,240,573
資産合計	10,080,841	10,074,532

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	934,859	889,111
短期借入金	600,000	600,000
未払法人税等	12,792	18,004
設備関係支払手形	23,052	14,031
その他	344,848	342,026
流動負債合計	1,915,553	1,863,173
固定負債		
繰延税金負債	132,779	132,779
退職給付引当金	470,576	457,038
資産除去債務	6,635	—
その他	47,898	54,072
固定負債合計	657,889	643,890
負債合計	2,573,442	2,507,064
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,219,588	2,219,588
資本剰余金	3,341,270	3,341,270
利益剰余金	2,166,588	2,105,179
自己株式	△80,049	△79,897
株主資本合計	7,647,397	7,586,140
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△139,823	△18,464
繰延ヘッジ損益	△176	△208
評価・換算差額等合計	△139,999	△18,672
純資産合計	7,507,398	7,567,468
負債純資産合計	10,080,841	10,074,532

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
売上高	3,409,136	3,656,727
売上原価	※1 2,869,202	※1 2,796,531
売上総利益	539,933	860,196
販売費及び一般管理費		
給料及び賞与	329,417	271,125
退職給付費用	29,940	22,203
貸倒引当金繰入額	234	64
その他	350,569	406,911
販売費及び一般管理費合計	710,161	700,305
営業利益又は営業損失(△)	△170,227	159,890
営業外収益		
受取利息	2,620	948
受取配当金	11,245	11,672
株式割当益	—	12,740
その他	4,793	2,504
営業外収益合計	18,659	27,865
営業外費用		
支払利息	3,893	4,399
たな卸資産廃棄損	13,960	5,152
為替差損	16,463	11,135
その他	1,430	2,206
営業外費用合計	35,748	22,894
経常利益又は経常損失(△)	△187,316	164,862
特別利益		
投資有価証券売却益	2,827	1,724
特別利益合計	2,827	1,724
特別損失		
固定資産除却損	3,304	2,248
投資有価証券評価損	19,136	54,403
関係会社整理損失引当金繰入額	434	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	4,350
特別損失合計	22,875	61,001
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△207,365	105,584
法人税、住民税及び事業税	5,772	5,492
法人税等調整額	—	—
法人税等合計	5,772	5,492
少数株主損益調整前四半期純利益	—	100,091
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△213,137	100,091

【第2四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
売上高	1,816,907	1,878,471
売上原価	※1 1,523,506	※1 1,424,060
売上総利益	293,401	454,411
販売費及び一般管理費		
給料及び賞与	164,536	137,328
退職給付費用	14,952	11,054
貸倒引当金繰入額	138	20
その他	171,314	204,738
販売費及び一般管理費合計	350,941	353,141
営業利益又は営業損失(△)	△57,540	101,269
営業外収益		
受取利息	1,309	449
受取配当金	91	92
法人税等還付加算金	719	—
その他	720	1,260
営業外収益合計	2,841	1,801
営業外費用		
支払利息	2,047	2,205
たな卸資産廃棄損	13,960	5,152
為替差損	12,255	5,380
その他	461	800
営業外費用合計	28,725	13,539
経常利益又は経常損失(△)	△83,424	89,532
特別利益		
投資有価証券売却益	2,827	—
特別利益合計	2,827	—
特別損失		
固定資産除却損	—	635
投資有価証券評価損	19,136	1,940
関係会社整理損失引当金繰入額	3,660	—
特別損失合計	22,797	2,576
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△103,394	86,955
法人税、住民税及び事業税	2,536	2,328
法人税等調整額	—	—
法人税等合計	2,536	2,328
少数株主損益調整前四半期純利益	—	84,627
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△105,931	84,627

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△207,365	105,584
減価償却費	136,753	114,793
有形固定資産除却損	3,215	2,248
長期前払費用除却損	89	—
関係会社整理損失引当金の増減額(△は減少)	△15,018	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	4,350
退職給付引当金の増減額(△は減少)	28,386	13,537
未払賞与の増減額(△は減少)	△57	2,758
貸倒引当金の増減額(△は減少)	652	64
受取利息及び受取配当金	△13,866	△12,620
株式割当益	—	△12,740
支払利息	3,893	4,399
為替差損益(△は益)	2,830	474
投資有価証券売却損益(△は益)	△2,827	△1,724
投資有価証券評価損益(△は益)	19,136	54,403
売上債権の増減額(△は増加)	△629,020	△67,160
たな卸資産の増減額(△は増加)	279,164	△10,948
仕入債務の増減額(△は減少)	195,844	45,748
未払消費税等の増減額(△は減少)	12,634	△19,984
長期未払金の増減額(△は減少)	—	△8,476
その他	△10,709	12,755
小計	△196,264	227,464
利息及び配当金の受取額	13,505	12,774
利息の支払額	△4,002	△4,390
法人税等の支払額	△9,299	△9,900
法人税等の還付額	5,019	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	△191,041	225,947
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△500,000
定期預金の払戻による収入	—	400,000
有形固定資産の取得による支出	△28,468	△45,556
長期預金の払戻による収入	—	100,000
投資有価証券の取得による支出	△84	△85
投資有価証券の売却による収入	11,130	14,464
従業員に対する長期貸付金の回収による収入	600	370
その他	958	△42
投資活動によるキャッシュ・フロー	△15,864	△30,850
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	100,000	—
リース債務の返済による支出	—	△267
自己株式の取得による支出	△379	△196
自己株式の処分による収入	—	23
配当金の支払額	△38,098	△38,562
財務活動によるキャッシュ・フロー	61,522	△39,003

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
現金及び現金同等物に係る換算差額	△7,550	△8,003
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△152,934	148,090
現金及び現金同等物の期首残高	890,414	780,127
現金及び現金同等物の四半期末残高	* 737,480	* 928,217

【継続企業の前提に関する事項】

当第2四半期連結会計期間(自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
会計処理基準に関する事項の変更	「資産除去債務に関する会計基準」等の適用 第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しています。 この結果、従来の方法によった場合に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益は272千円減少し、税金等調整前四半期純利益は、4,622千円減少しています。

【表示方法の変更】

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
(四半期連結損益計算書関係)	「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用に伴い、当第2四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目を表示しています。

	当第2四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)
(四半期連結損益計算書関係)	「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用に伴い、当第2四半期連結会計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目を表示しています。

【簡便な会計処理】

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
	該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
	該当事項はありません。

【追加情報】

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
	当社は、退職年金制度については、すべて適格退職年金制度を採用しておりましたが、平成22年4月1日より確定給付企業年金制度80%と退職一時金20%から構成される制度に移行しています。これによる損益への影響は軽微です。

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

第2四半期連結累計期間

前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
※1 売上原価には、たな卸資産の収益性の低下による簿価切り下げ額の戻入益12,891千円が含まれていません。	※1 売上原価には、たな卸資産の収益性の低下による簿価切り下げ額2,327千円が含まれています。

第2四半期連結会計期間

前第2四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)
※1 売上原価には、たな卸資産の収益性の低下による簿価切り下げ額の戻入益5,807千円が含まれていません。	※1 売上原価には、たな卸資産の収益性の低下による簿価切り下げ額6,132千円が含まれています。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
※ 現金及び現金同等物の当第2四半期連結累計期間末残高と当第2四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	※ 現金及び現金同等物の当第2四半期連結累計期間末残高と当第2四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
現金及び預金 1,528,668千円	現金及び預金 2,024,610千円
有価証券 88,815千円	有価証券 93,804千円
計 1,617,483千円	計 2,118,414千円
預入期間が3か月超の定期預金 △865,000千円	預入期間が3か月超の定期預金 △1,165,000千円
社債 △15,003千円	社債 △25,197千円
現金及び現金同等物 737,480千円	現金及び現金同等物 928,217千円

(株主資本等関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成22年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

1 発行済株式の種類及び総数

株式の種類	当第2四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	26,220,000

2 自己株式の種類及び株式数

株式の種類	当第2四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	446,831

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	38,662	1.50	平成22年3月31日	平成22年6月30日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)及び前第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

当社及び連結子会社は、電子部品の製造ならびに販売を主たる事業として行っており、当事業の全セグメントの売上高の合計及び営業利益の合計額に占める割合が100%であるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しています。

【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)

	日本 (千円)	米国 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	1,816,907	—	1,816,907	—	1,816,907
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,816,907	—	1,816,907	—	1,816,907
営業利益又は営業損失(△)	△57,184	△647	△57,832	292	△57,540

(注) 国又は地域の区分は、地理的近接度によっています。

前第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

	日本 (千円)	米国 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	3,371,034	38,101	3,409,136	—	3,409,136
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	22,068	930	22,999	(22,999)	—
計	3,393,103	39,031	3,432,135	(22,999)	3,409,136
営業利益又は営業損失(△)	△164,650	△5,942	△170,593	365	△170,227

(注) 国又は地域の区分は、地理的近接度によっています。

【海外売上高】

前第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)

	北米	アジア	欧州	計
I 海外売上高(千円)	26,738	514,841	28,298	569,877
II 連結売上高(千円)	—	—	—	1,816,907
III 連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	1.4	28.3	1.5	31.3

(注) 1 国又は地域の区分は、物理的近接度によっています。

2 各区分に属する主な国又は地域

(1) 北米・・・米国

(2) アジア・・・韓国、香港、台湾

(3) 欧州・・・スペイン、スウェーデン

前第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

	北米	アジア	欧州	計
I 海外売上高(千円)	60,940	1,009,470	60,660	1,131,071
II 連結売上高(千円)	—	—	—	3,409,136
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	1.7	29.6	1.7	33.1

(注) 1 国又は地域の区分は、物理的近接度によっています。

2 各区分に属する主な国又は地域

(1) 北米・・・米国

(2) アジア・・・韓国、香港、中国

(3) 欧州・・・スペイン、ドイツ

【セグメント情報】

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社グループでは、製品種類別に取締役会が経営資源の配分の決定及び評価を行っているため、各製品種類を1つのセグメントとしたうえで、量的基準に照らし合わせ報告セグメントを決定しています。

したがって、当社は、製品別に、「タンタルコンデンサ事業」、「回路保護部品事業」の2つを報告セグメントとしています。

従来、当社は、事業の種類別セグメント情報については、電子部品の製造販売事業の単一セグメントとし開示を行っていませんでしたが、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」が第1四半期連結会計期間より適用となるため、「マネジメント・アプローチ」のセグメント開示に変更しています。

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	タンタル コンデンサ事業	回路保護部品 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,889,570	569,875	3,459,445	197,281	3,656,727	—	3,656,727
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	2,889,570	569,875	3,459,445	197,281	3,656,727	—	3,656,727
セグメント利益	237,970	152,296	390,267	19,996	410,263	△250,372	159,890

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、フィルムコンデンサ事業及びアルミコンデンサ事業等を含んでいます。

2 セグメント利益の調整額△250,372千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務、経理、管理部門等の一般管理部門に係る費用です。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

当第2四半期連結会計期間(自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	タンタル コンデンサ事業	回路保護部品 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,481,721	286,343	1,768,064	110,406	1,878,471	—	1,878,471
セグメント間の内部 売上又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,481,721	286,343	1,768,064	110,406	1,878,471	—	1,878,471
セグメント利益	126,756	80,713	207,470	17,876	225,346	△124,077	101,269

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、フィルムコンデンサ事業及びアルミコンデンサ事業等を含んでいます。
- 2 セグメント利益の調整額△124,077千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務、経理、管理部門等の一般管理部門に係る費用です。
- 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

当社グループの所有する有価証券は、企業集団の事業の運営において重要なものではありません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。なお、ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は開示対象から除いています。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
291.28円	293.59円

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎

項目	当第2四半期 連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	7,507,398	7,567,468
普通株式に係る純資産額(千円)	7,507,398	7,567,468
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式 の数(株)	25,773,169	25,774,849

2 1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額

第2四半期連結累計期間

前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額 8.26円	1株当たり四半期純利益金額 3.88円

- (注) 1 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、又潜在株式が存在しないため記載していません。
- 2 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。
- 3 1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額の算定上の基礎

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益又は四半期純損失(△)(千円)	△213,137	100,091
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失金額(△)(千円)	△213,137	100,091
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式の期中平均株式数(株)	25,778,951	25,773,625

第2四半期連結会計期間

前第2四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額 4.10円	1株当たり四半期純利益金額 3.28円

- (注) 1 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、又潜在株式が存在しないため記載していません。
- 2 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。
- 3 1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額の算定上の基礎

項目	前第2四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益又は四半期純損失金額(△)(千円)	△105,931	84,627
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失金額(△)(千円)	△105,931	84,627
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式の期中平均株式数(株)	25,777,639	25,773,169

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年11月11日

松尾電機株式会社
取締役会 御中

太陽A S G 有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柳 承 煥 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柏 木 忠 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている松尾電機株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、松尾電機株式会社及び連結子会社の平成21年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年11月10日

松尾電機株式会社
取締役会 御中

太陽A S G 有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柳 承 煥 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柏 木 忠 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている松尾電機株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、松尾電機株式会社及び連結子会社の平成22年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。